

# 真言宗 千光寺



## 《縁起》

役小角は、舒明天皇6年（634）元日、大和国葛木上郡茅原の郷、賀茂役氏の娘白専女（母）と問賀介麿（父）との間に生まれ、後に成人し、金剛葛木山において仏道修業に励まれました。

西暦 660年頃、生駒明神に参詣の祈りご神託により鳴川の里に入り、小さな草堂を建て、漆の木で千手観音を刻み、日夜 荒行に励まれたとのこと。

その小角の身を案じた白専女（母）は、従者と共に鳴川の里に登り、小角と共に修行しました。

ある日、小角が遠見ヶ嶽に登り南の方を観ると、多くの山々の中に不思議な光を放つ山を見て靈威を感じ、母を鳴川に残し二匹の鬼を従えて此処より南へ二上山・葛木山・金剛山・友ヶ島を経て熊野へ、熊野から大峰山系に入り 山上ヶ嶽に登り、ここを修行根本道場と定められ、小角が大峰山へ行かれてからも、母 白専女は鳴川の里に残り修行を続けられたとのこと。

ゆえに、後世の人々は鳴川千光寺を”元の山上”と呼び、“女人山上”と称し、女人の修行道場として栄えました。

天武天皇の御宇白鳳12年勅願により千光寺と号し五百石を下し賜われました。

修行のご案内

年中行事ご案内

交通経路ご説明

メインへ戻る